

## シートベルト着用率の推移（諏訪6市町村の着用率・県下市町村順位）

	13年4月		13年10月		14年4月		14年7月		14年10月		14年12月		15年4月		15年7月		15年9月	
	着用率	順位	着用率	順位	着用率	順位	着用率	順位	着用率	順位	着用率	順位	着用率	順位	着用率	順位	着用率	順位
富士見町	64.7	119	85.0	30	87.9	32	84.3	62	91.2	21	95.8	4	84.7	85	69.6	120	82.3	115
岡谷市	75.3	93	67.5	114	81.9	58	73.6	116	83.8	73	87.4	56	80.7	109	84.0	96	94.1	23
諏訪市	71.7	106	71.2	109	81.7	60	73.4	117	77.4	115	84.9	75	80.3	110	88.3	64	87.5	88
茅野市	79.7	61	77.7	76	81.1	68	79.4	95	77.1	117	93.4	10	81.7	103	82.2	106	90.4	56
下諏訪町	74.3	100	81.0	54	79.0	79	82.9	72	87.5	45	88.1	51	83.5	95	87.6	69	88.7	76
原村	86.5	21	79.5	69	95.6	5	92.3	15	93.3	7	91.3	25	91.9	21	89.0	58	91.5	46
管内平均	75.3	9	75.4	9	83.5	5	79.2	10	83.2	8	91.7	1	82.9	10	82.3	10	87.5	9
県平均	80.1		79.8		82.2		84.6		85.1		86.5		86.8		87.9		90.0	

\*着用率は運転席、助手席を含めた総合着用率になっています。

\*平成13年4月から15年7月までは県下120市町村が同一時期に調査したものです。平成15年9月の調査は合併により118市町村中の順位を示しています。

\*管内順位は佐久、上小、諏訪、上伊那、下伊那、木曾、松本、北安曇、長野、北信の10地方部中の順位を示しています。

\*平成14年の12月の着用率がよかったのは啓発活動と調査を同時に行ったためのものです。

また、軽トラックの老夫婦で助手席に乗っているおばあちゃんの着用が悪いこともわかりました。

### 何故シートベルトをしなければならぬか

富士見町交番今井所長にお話を聞いたところ、昔は車と人の事故が多く、歩行者の安全対策に力を入れてきましたが、最近は車同士の事故が多くなり、シートベルトの重要性が言われるようになった。死亡事故で非着用者の割合は70%もあり、シートベルト非着用者の致死率は着用者の12倍にもなります。シートベルトをしていれば助かるケースが多いとのことでした。

車は衝突の際に衝突部のボディが変形する事により衝撃を吸収し、ショックを和らげますが、同時に強い力で進行方向に放り出されようとします。シートベルトは車外に飛び出さないための命綱です。自分の両手・両足で支えられる衝撃は体重の2〜3倍で時速7km程度が限度です。

シートベルト擬似体験をしたお母さんに感想を伺ったところ、4〜5km程度の速度でこんなに衝撃があるとは思わなかった。シートベルトの必要性を改めて感じたそうです。

## ゼロからのスタート

### シートベルト着用への取り組み

平成13年4月に県下で下から2番目の着用率の汚名を返上しようと、富士見町交通安全推進協議会が中心となり、茅野警察署、富士見町交番、茅野交通安全協議会富士見支部、地方事務所、富士見町が「カチッと21作戦」と題し啓発活動・取締りなどを行い、一時は

90%を越える着用率で定着したかにみえましたが、元に戻ってしまいました。

今回もワースト1位返上のため、安協富士見支部が県営産業団地前や役場上交差点前で桃太郎旗を掲げて街頭啓発を行ったり、建設課管理交通安全係が各事業所へシートベルトの徹底をお願いしたり、高齢者交通安全教室の開催をお願いしたりと啓発活動を行ってきま



9月29日に役場玄関前で模擬衝突体験を行いました。町長をはじめ、お母さん方に参加いただきました。参加者の皆さんはシートベルトの必要性を改めて感じていました。